

もくじ

はじめに……3

日本のこよみ 二十四節気・七十二候……4

立秋

「りっしゅう」

秋のはじまるころ……6

初秋のおとずれを知らせる花……6

秋の七草が咲くころ……8

秋の虫が鳴くころ……10

バッタの仲間……10

くらべてみよう……11

処暑

「しよしょ」

イネが実るころ……12

クリが実るころ……14

実りの秋……15

白露

「はくろ」

朝露が降りるころ……16

朝露がかがやくブラシのような穂……17

赤トンボを目にするころ……18

アキアカネの一生……18

ツバメが南の国へ帰るころ……19

秋に日本へ渡ってくる鳥……19

秋分

「しゅうぶん」

ヒガンバナが咲くころ……20

秋の花だん……20

キンモクセイがにおうころ……21

ドングリが落ちるころ……22

ドングリの虫……23

寒露

「かんろ」

木の実が色づくころ……24

赤い実のひみつ……25

霜降

「そうじょう」

モミジが赤くなるころ……26

木の葉の美術館……28

生物季節観測から見る
季節のおとずれを知らせる生き物……30

はじめに

実りの秋、食欲の秋、読書の秋……。秋を表す言葉をあげればきりがありません。これは、きびしい暑さだった夏のあとにおとずれる秋という季節が、おだやかな気候で何をするにも適していることを表しています。しかし、おだやかなだけではありません。時には台風も来るし、日に日に寒くもなってきます。生き物たちはやがて来る冬に備えて、命をつなげるために実を結んだり、えさを蓄えたり、それぞれが一生懸命に生きています。素晴らしい日本の秋を、五感すべてで感じてください。

処暑

8月23日

イネが実るころ

こくものすなわち実る

イネやアワが実る

イネの種がお米です。日本にはコシヒカリやササニシキなど、いろいろな種類があります。

処暑とはきびしい暑さが峠をこして、朝夕には涼しい風が吹きはじめるころです。田んぼの稲穂はたわわに実って頭を垂れ、日に日に黄金色が色濃くなっていきます。二百十日（立春から210日目）もこのころで台風の日本への接近も増えてきます。

実ったイネをスズメに食べられないように黍山子を立てる。



イネを干し、保存性を高めてお米のうま味を出す。



「実るほど頭を垂れる稲穂かな」の言葉どおりに実った稲穂。





コナラ

さとやま そうきばやし み らくよう
里山の雑木林で見られる落葉
樹で、ドングリの代表的存在。



ド
ン
グ
リ
が
落
ち
る
こ
ろ

ドングリには、木の種類によって春に花が咲いてその年の秋に実るものと、次の年の秋に実るものがあります。どちらも夏の後半あたりから急に大きくなりはじめ、秋が深まるにつれ茶色くじゅくし、やがてぽろっと落ちて木の下をうめつくします。



アカガシ

ギザギザのない大きな葉の常緑樹で、ドングリも大きめ。



マテバシイ

大きめのドングリはあくが少なく、炒って食べられる。



クヌギ

コナラとともに雑木林を代表するドングリ。丸くて大きい。

レッドオーク

きた げんさん さむ ちほう
北アメリカ原産で、寒い地方では街路樹として植えられる。



アベマキ

ちゅうぶ ちほう にし おお
中部地方より西に多い。ドングリはクヌギに比べて丸い形。



スタジイ

ドングリはあくが少ないので、生でも炒ってもおいしい。



シラカシ

ドングリは大きくはないが、かたくてきれいな形。



ミズナラ

おんたいこうようじゅりん だいいょうてき しほ
温帯広葉樹林の代表的な種で、大きめのドングリになる。



ドングリの虫



ゾウムシの仲間はドングリの中に卵を産みつけます。幼虫は中身を食べて育ち、外に出て地中で蛹になります。ドングリの穴は幼虫が外に出た跡です。